

ダルマガエルが目ざめました

ウェットランドの管理棟では、数年前からダルマガエルを水槽で飼育しています。昨年の今ごろはまだ冬眠からさめてなかったのですが、今年は3月の下旬に穴から出てきました。比較のためにトノサマガエルを1匹混ぜているため、早起きの同居者につられて目ざめてしまったのでしょう。



ダルマガエルといえば安田地区が有名ですが、ウェットランドで飼育しているものは系統が異なります。最近開通した吉舎インターチェンジ付近の田んぼが原産地です。高速道路の橋脚工事に先立つ環境調査で、2007 年に見つかりました。存続が危ぶまれたので、2008 年から一定数を安佐動物公園で飼育していただいています。

安佐動物公園で生まれたオタマジヤクシの一部は、原産地の田んぼに戻し放流されていますが、休耕になれば水が途絶えて、カエルもほろんでしまいます。そこで、ウェットランドの千束谷に保護池をつくり、オタマジヤクシの一部を放しています。水槽で展示飼育しているカエルは、保護池で育ったものの一部です。昨年の夏まではまだ未成熟な状態でしたが、秋には繁殖の準備がととのったようで、ギューーと大声で鳴いていました。5月下旬に保護池にもどし、1歳年下の若ガエルと選手交代させる予定です。